



1879 明治12年

北会津の名称誕生。

■江戸時代の藩体制崩壊後の区制から、郡村が復活。10郷からなる会津郡のうち、会津盆地部分の黒川郷を北会津郡、田島郷を中心とする9郷を南会津郡と称して分割。明治維新の頃の会津郷284村のうち、現在の「北会津」村に参画しているのは38村。北会津郡の他の村々は会津若松市に合併し、北会津村は「一郡一村」の珍しい自治体となっている。

1889 明治22年

荒井・館ノ内・川南の3村誕生。

■磐梯山が爆発した1888年(明治21)の町村制公布により、自然発生的集落単位の町村を300~500戸を基準に合併。すでに1875年(明治8)大字制施行により、中荒井村、二日町村、東麻生村の3村で伊和保村と名乗るなど、約20村に集約されていた。1953年(昭和28)荒井村と館ノ内村が合併し、荒館村誕生。

1908 明治41年

若松連隊の食料基地に。

■「会津の平坦地は米穀その他の物産に富み、古くから用兵の地…」と歩兵の若松連隊を鶴ヶ城前に誘致。若松城下の「さえんば」以来400年余の野菜やくだものづくりのノウハウを発揮し、兵営の食糧を供給。

1908 大正3年

蟹川に固定橋架ける。

■若松と結ぶ渡船場付近の木造で、すでに1903年(明治36)高田橋完成。コンクリート橋に架け替えたのは、高田橋が1931年(昭和6)、蟹川橋1959年(昭和34)。

1926 大正15年

只見線開通。

■会津本郷駅開設。すでに1889年(明治32)郡山~若松間鉄道開通。

1941~45 昭和16~20年

悲惨な太平洋戦争。

■1941年(昭和16)太平洋戦争勃発。福島県から約17万人の将兵が動員され、6万7544人が戦没。県民29人に1人が死亡。北会津村内の英霊は、330余柱。

1955 昭和30年

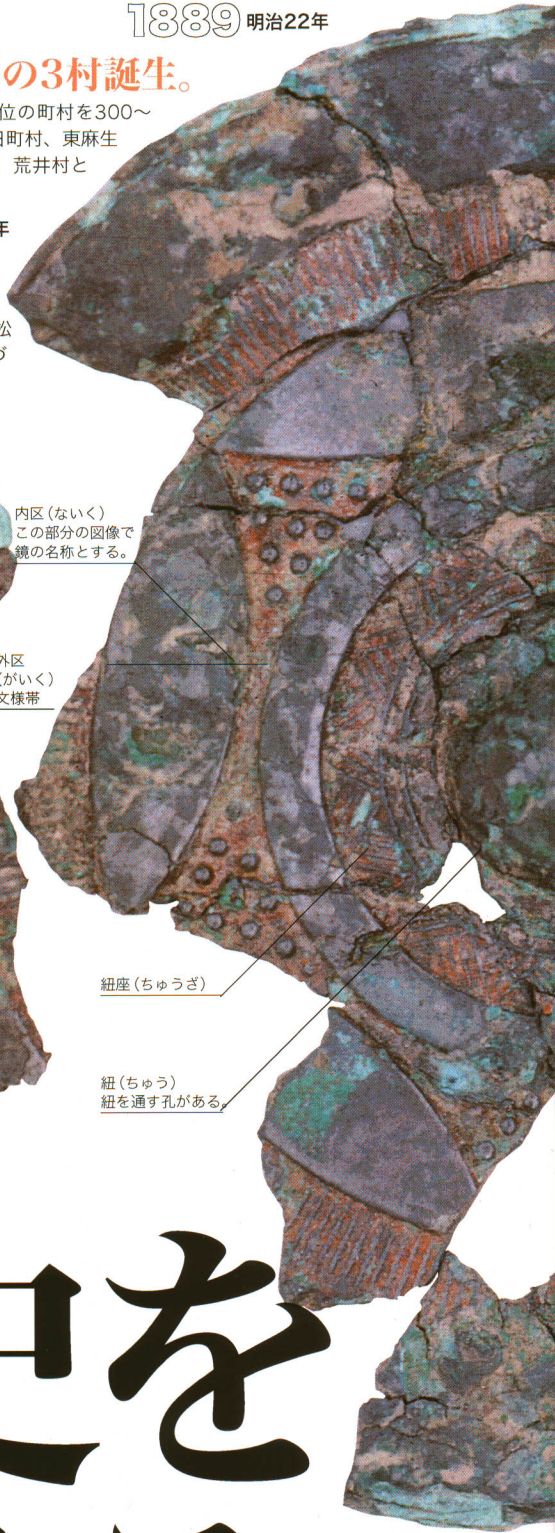
宮川新水路開削。

■阿賀川より水位の低い旧河道の宮川(鶴沼川)すじは支流が多く、増水による堤防決壊、逆流による田畑の冠水をくりかえす。この状況を解消する約3kmの新水路は、1933年(昭和8)着工。太平洋戦争で中断し、完成まで20年余を費やす。阿賀川の堤防は、水路を拓いた約30町歩の田地掘削の残土で築いたもの。



下荒井の観音堂

北会津村には、会津三十三観音霊場の12番田村山、13番館、14番下荒井の3つの札所があります。その森には、会津路の素朴な民俗と武士の世の昔語り立ち込めています。下荒井観音堂のみことな彫刻は、村文化財。



内区(ないく)
この部分の図像で鏡の名称とする。

外区(がいく)
文様帯

紐座(ちゆうざ)

紐(ちゆう)
紐を通す孔がある。



両堂不動堂

成田市、新発田市菅谷とともに、日本三所不動の1つとされ、縁日は9月3日。かつて、民謡・会津磐梯山の元唄である玄如節で踊り明かした会津の交流拠点。お籠り堂は村文化財。

KITAIJIZU NOW

歴史を愛する。